



## 今月の主な目次

- 牧草新品種の紹介と  
早春の肥培管理
- 放牧管理のポイント

- 営業所だより シリーズ ⑥  
別海営業所からの現地レポート
- 平成16年産粗飼料の傾向

## 時の話題

## 「冬のソナタ」・「おしん」・ 「耕作放棄地」・「見直し」

「冬ソナ人気逆輸入」と朝日新聞の記事。韓国のKBSテレビが日本で大人気となった「冬のソナタ」の再放送を始めたところ、深夜としては異例の17%を越す高視聴率を記録した。『ヨン様』に女性ファンが熱狂する日本でのブームが韓国に“逆輸入”された形となっているとの内容であった。

再放送後、KBSには「もう一度見ても面白い」「日本で人気が出た理由が分かる」との多数の意見が寄せられ、「日本で人気の『ヨン様』をあらためて見てみよう、という心理が働いた」と分析されている。

この「冬のソナタ」の経済効果は、日韓合わせて約2,300億円に達するとの試算である。韓国への日本人観光客の急増、ホテルや飲食店並びに関連産業の売上げが急増し、日本でも関連グッズ販売など国内消費にも大きな経済効果があったと報道されている。

「世界で一番有名な日本人は誰か」インターネット情報によると「おしん」らしい。

「おしん」は日本で1983年4月から放送が開始され、その後、世界約60の国と地域で放送された。中国だけでも2億人が見たといわれ、インドネシアではテレビ放映が夕食の準備と重なったため放送局に抗議が殺到したそうだ。

「おしん」の視聴率は、イラン82%、タイ81.6%、中国(北京)75.97%、ポーランド70%と国を越えても「感動」は共通するものようである。

2004年の耕地面積は471.4万haで、2000年の全国の耕作放棄地は21万haと農水省から発表されている。5年後の今年に新しい統計数値が発表される予定であるが増加していないことを祈りたい。耕作放棄地の拡大は農村を荒廃させるだけでなく、各地でイノシシ・シカ・猿・熊などの野生生物が農地や家屋に出没する事態を引き起こしている。

この出没は、今まで言われていた異常気象によるエサ不足のみの原因とは言えない現象のように思える。その被害は農作物に限らず、人畜にまで及んでいる。一方、耕作放棄地に牛を放牧することにより、ニホンジカの出現割合が半減したとの実験結果も発表されて

いた。やはり、耕作放棄地の増加は農村の環境はもちろん、野生生物の生態にまで変化を及ぼしていると言える。

先般、青森県で肉牛素牛のセリ市場で「放牧牛」という別表示を取り入れたとの報道があった。この記事を見ただけで、元気いっぱい飛び回った素牛が想像される。また、先日、放牧牛乳はβ-カロテンが約1.5倍、ビタミンEが約1.8倍、更に抗アレルギー作用などがあるとされている脂肪酸の一種、共役リノール酸も多くなる傾向があるとの新聞記事を見た。まさに、食品で言われている「食の安全・安心・機能性」の言葉を連想させる内容であり、雪印の創立者、黒沢西蔵翁が提唱した「健土健民」の思想(健全な土地が健全な食料をもたらす、健全な食料が健全な人間を形成する)を思い浮かべた。

この素晴らしい栄養食品が、スーパーの棚で「○○の名水」より肩身の狭い感じで取り扱われているのは、なんとも残念でならない。

現在、私たちの日常の食生活は、量・質・品揃えの全てがかなり満たされ、逆に栄養摂取量過多も耳にすることも多くなった。また、流通している食品の多くは成分内容等を細かく表示する時代となった。一方で牛肉の等級規格や生乳成分の取引基準など、多くの農産物の基準・規格は変化が少ないように思える。このままではよいのだろうか、そろそろ見直すべき時期に入ったのではないだろうか。そのことが、我が国の農地利用の活性化と食料自給率の向上につながるように思える。

各地の農産物直売場や物産館は客足も多いようである。お客様の多くは農家・農村を姿・風景を連想しながら購入しているのではないだろうか。

もっと農地を活かした生産、地域性と文化が継承された食料生産こそが「健土健民」につながるように思える。

多くの人々に感動を与えた、忘れかけていた素朴さを思い起こさせた「おしん」、過ぎし日の時間を呼び戻した純朴なストーリーの「冬のソナタ」、農地を大切に利用した環境保全循環型農業から生産された農産物、消費者側から見ると、どこか共通点があるように思えてならない。

栄養補給と称して各種のサプリメント剤を飲用するよりも、健全に生産された元気な農産物を腹いっぱい食べる習慣・食育を大切にしたいものである。

(常務取締役 小林 正勝)